

雅歌2章 70人訳

1 私は平原の花、谷の百合

2. 私の連れ合いが娘たちの間にあるのは、百合がとげの間にあるようである。

3 私の同族が息子たちの間にあるのは、森の木の間りんごがあるようだ。私は彼の影を望む、そして座る、果実は私の喉に甘い。

4 私をぶどう酒の家に連れて行ってください、私の前に愛を備えてください。

5 私を香水で力ずけてください、りんごとともに私と一緒にいてください、私は愛に傷ついているから。

6 彼の左手が私の頭の下にあるように、彼の右手が私を抱いてくださるように。

7 野の力と徳により私はお願いしますエルサレムの娘たちよ。彼が喜ぶまであなたがたが私の愛を目覚めさせ、覚醒させないように。

8 私の親族の声、見よ、彼は山々を飛び越え、丘を越えて来る。

9 私の親族は、鹿またはバエテルの山の若い牡鹿、丘の上を跳ねている。窓越しに見て、格子戸越しに見ている。

10 私の親族は答え、私に語る、おきなさい、来なさい、私の連れ合いよ、私の美しいもの、私の鳩。

11 何故なら、見なさい、冬は過ぎ、雨は行き、時は過ぎている。

12 土地に花が見られ、刈り込みのときが来た、鳩の声が私たちの土地に聞こえる。

13 いちじくの木はその若いいちじくを出す、ぶどうはその甘い実を出す、これらはおう;起きなさい、来なさい、私の連れあひよ、私の美しいもの、私の鳩よ、来なさい。

14 あなたは私の鳩、岩の陰にある、壁の近くに。私に顔を見せてください、私にあなたの声を聞かせてください、何故ならあなたの声は甘く、あなたの顔は美しいからです。

15 ぶどう畑を荒らす小さな狐を取り去ってください、何故なら、私たちのぶどうはあまい実を実らせるからです。

16 私の親族は私のもの、そして私は彼のもの、彼は彼の群れを百合の間に食させます。

17 日が落ちるまで、そして影が去るまで、戻ってください、私の親族よ、あなたは、谷の山の鹿や若い牡鹿の様になってください。

